

科目名		授業形態	担当教員名	
病理学概論		講義	荒木 金隆	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（ 2 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
疾病をその成り立ち方（本質）から幾つかのカテゴリーに分類して学習していきます。人間の生理機能との関連において病気の本質を学ぶとともに、病気を来す病因や病態について知り、疾病相互の関連について理解できるようにすることを目的とします。				
授業の到達目標				
1．様々な病気で共通する病理学的変化を具体的に述べるができる。 2．代謝異常、循環障害、免疫、炎症、腫瘍について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	病因論：内因、外因の概要、及び内因の中で特に内分泌疾患について理解する。			
2	先天性異常疾患：染色体・遺伝子の異常、環境要因に分けて疾患を理解する。			
3	退行性病変・進行性疾患:変性、萎縮、壊死、アポトーシス、再生、化生、肥大及び過形成の意味を理解する。			
4	代謝異常(1) 蛋白質、脂質、糖質代謝異常の概念と関連する疾患について理解する。			
5	代謝異常(2) カルシウム、銅、鉄、ビリルビンの代謝異常について理解する。			
6	循環障害(1) 充血、うっ血、虚血、出血、浮腫について理解する。			
7	循環障害(2) 血栓症、塞栓症、梗塞について理解するとともに、虚血性疾患について概要を知る(含む心電図)。			
8	循環障害(3) 高血圧、肺高血圧、側副循環(門脈圧亢進症)、ショックについて理解する。			
9	免疫(1)：免疫の概念及びその成立について理解する。			
10	免疫(2)：アレルギー性組織障害、自己免疫疾患(含む膠原病)、免疫不全状態を理解する			
11	炎症：炎症の定義及び関与する細胞を知るとともに、急性と慢性炎症の比較を行いその病態を理解する。			
12	感染症：病気の外因としての生物学的要因を区分できるようにする。パワーポイント使用。			
13	腫瘍総論：良性と悪性、発生母地と分化度を理解するとともに外見を観察する。パワーポイント使用。			
14	腫瘍各論：各部位発生した腫瘍の病態を知る。特に脳腫瘍について理解する。			
15	老化・廃用性疾患：加齢に伴う各器官の状態を理解する。			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	90～100%			
レポート				
小テスト				
平常点	0～10%	客観的に明らかな状態(欠席や授業態度など)は考慮する。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準理学療法学・作業療法学：専門基礎分野 第4版	梶原博毅		医学書院	
自由記載	プリントを配付する。循環器(心電図)、感染症及び腫瘍はパワーポイントを使用する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
新看護学2 専門基礎「2」 第13版	坂本穆彦		医学書院	
PT・OT 基礎から学ぶ病理学ノート	中島雅美		医歯薬出版	
自由記載				
備考				
睡魔とたたかって少しでも理解されることを望みます。				